

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 基本リテラシーとしての学力に優れた学生を確保する。	→入学人員対募集人員の比率。競合する大学の学部との勝敗率。	B	B	A	A	A
2. 国際文化吸収、日本文化発信のできる学生を確保するため、A0入試、指定校入試で学力担保を重視する。	→A0入試、指定校入試で入ってくる学生について英語の一定の評定平均値を確保。	B	B	B	B	B
3. A0入試において社会性を持つ学生を選抜することを重視する。	→社会貢献、人間関係力の表れとなるNPO、ボランティア活動、学校運営への参加者のA0入試での合格者数。	B	B	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学力優秀な学生を確保するために、各種入試・一般入試の定員比率を入試検討委員会で隔年ごとに注意深く検討した。入学定員と入学者数との比率は「1」を目標とし、そのための入念な合否判定を実施した。他大学の同一系統学部と本学を併願して両方に合格した受験生を分析した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 入学定員と入学者数との比率を「1」とする目標は、極めて順調に達成された上で、総定員も満たされている。また、他大学の同一系統学部と本学を併願して両方に合格した受験生を分析すると、競合大学・競合学部との併願者については、多くが本学に入学している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入試検討委員会を中心に、継続的に入試判定スキルの引き継ぎを行う。また、他大学の入試動向や当該年度の傾向についても、入試部にヒアリングを行うなどして、毎年情報収集を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試検討委員会を中心に、AO入試資格の見直し、指定校推薦入試の指定校の範囲の見直しを行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か AO入試において、これまで「高度な資格」取得者としていたカテゴリーから「英語学力」に関するカテゴリーを独立させ、2014年度入試から新たにグローバル入試として実施することを決定した。また、指定校推薦においても、2014年度からより広い地域から指定校を選定し早期に学生を確保するようにした。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入試検討委員会を中心に2014年度AO入試の変更、および指定校推薦の変更による中長期的な影響を観察・分析し、その結果を必要に応じて両入試の内容にフィードバックする。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか AO入試において社会貢献やボランティア活動を評価する入試カテゴリーは、現段階では実施できていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か AO入試カテゴリーに社会貢献やボランティア活動を含めていないため、特段の成果は無い。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度からのグローバル入試では、国際貢献活動を志す者に対して門戸を開くことを予定している。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	650	650	650	650	650	
指標2	志願者総数	人	6,285	5,666	6,223	5,415	5,319	
指標3	合格者数	名	1,613	1,580	1,530	1,509	1,582	
指標4	入学者数	名	654	681	655	610	680	
指標5	志願者倍率	倍	9.7	8.7	9.6	8.3	8.2	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.03	1.03	1.01	1.00	1.01	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	46.3%	49.8%	49.5%	48.3%	52.9%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	
指標9	在籍学生数	名	2,803	2,781	2,764	2,739	2,749	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	107.8%	107.0%	106.3%	105.3%	105.7%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	(2)	(3)	(5)	(2)	0	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	24	39	28			

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入